

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600535		
法人名	有限会社ハーベストライフ		
事業所名	グループホームみのり(壱)		
所在地	静岡県三島市南二日町650番地1		
自己評価作成日	平成26年 1月23日	評価結果市町村受理日	平成26年3月10日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特段ひとつに力を入れているのではなく、一人一人の入居者様に対して、その方の生活歴、好みなどの『その人らしさ』を尊重し、安全に、安心して暮らして頂けるよう、日々の生活を大切に考え支援させて頂いております。ご家族様との交流の機会も大切に、ホームでの活動や支援の姿勢などを理解して頂けるように、日々活動しています。入居者様が安心して穏やかに、笑顔がたくさん見られるように、『日々の生活』を大切にしながら、自分達のケアを立ち止まり振り返りながら、みのりスタッフ一同チームとして、より質の高いケアを目指しています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2270600535-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2270600535-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成26年1月31日		

行政や多職種との連携に努め、認知症介護指導者として事業所内外のレベルアップに尽力する代表と、適宜細やかな指示で職員の信頼を集める管理者の両輪に支えられた事業所です。"トータルバランスとしてすべてに対して基準以上のものでありたい、と臨むなか、職員全員を正社員としてその標準化を図っています。「ようこそおいで下さいました」「どうぞどうぞ」と来客を出迎え、我が家のように案内する利用者の姿は「主役、としての暮らしが担保されていることを十二分に物語っています。開設9年目となって重度化に向き合う局面を迎えました。最期までその人本来の在り様を探る時間が静かに流れています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みのりある最高の生活を収穫する」「もうひとつの我が家」という理念の下、一方的に介護されるのではなく、入居者様が自発的に生活でき、かつ本当の家のように、安心できる場所となるような、支援を目指しています	玄関、食堂に掲示し、職員採用時の面接にも理念を伝えています。「自分や親ならどう接してほしいか」具体例を通して学び、その結果どう変わったかを、職員ミーティングで話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	恒例行事となっている納涼祭には、たくさんの近隣の方の参加があります。隣組に加入しており、餅つきなどの地域行事の参加に加え、今年度は組長をさせて頂き、地域の方との交流もますます深まっています	地域で組長の役割を担ったことで親交が深まり、連携がより図れるようになりました。回覧板でお知らせした納涼祭には100名以上の参加があり、ビンゴゲームや焼きそばの提供、シャギリや和太鼓で盛り上がりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の地域の方との交流の場において、法改正などの介護に対する疑問にお答えするようにしています。施設長が研修の講師を務めたり、キャラバンメイトにも参加しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設内・外研修の報告、より良い支援への取り組みの報告を行ったり、地域の方や、ご家族様の介護に対する思いを伺い、サービスに活かせるようにしています	地域包括支援センター職員、新旧民生委員、家族、利用者の参加を得て、定期開催されています。活動報告後のフリートークは本来の目的を超え、地域が抱えている現状課題抽出と解決方法を探る場に発展しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村・地域民生委員等の方に参加頂いたり、三島市グループホーム連絡会の場で交流を図り、介護現場の現状をお伝えしたり、行政機関に意見を頂いたりしています	三島市グループホーム連絡会の会場が市役所のため、相談やアドバイスがもらいやすくなっています。1ヶ月に一度訪問する介護相談員は一人ひとりの利用者に関わりをもち、活気ある生活の下支えとなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間の連携や声掛けで、常に入居者様の動きを見守り、施錠をしない、身体拘束をしない体制を作っています。また、管理者から身体拘束についての正しい知識を得ています	「正しい知識をもつことで防げる」とし、外部研修や会議で学んでいます。職員の支援や行動がその人の行動に影響を及ぼす為(人的環境)対処法としての言葉かけにならないように、その人の気持ちを受け止めることで、安心の暮らしに繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止委員会を設置し、事業所内で防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護等の制度を必要としている入居者様はいませんが、管理者は制度について知識を持っており、必要な時は活用できるようになっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、法改定時には、ご家族様に内容を十分ご理解頂けるよう、口頭での説明はもちろん文書も作成して、時間を十分とり説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が市より訪問していただき、入居者様一人ひとりに、不満や悩みを聞いてくださっています。ご家族様には、毎月施設でのご様子をお知らせする手紙を出し、その際にいつでもご意見を伝えてくださるよう、お伝えしています。玄関にご意見箱も常時設置しています	意見箱への投書はないものの、気になることは直接伝えてくれます。毎月の便利には「ご意見ご要望がありましたら遠慮なく」の言葉を添え、同封した写真は「表情から気持ちがわかり楽しみ」との声が届いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている職員ミーティングや、毎日の申し送り等で、現場の意見、提案を聞き、ケアの向上につながるよう努めています	勤務シフトはできるだけ希望に添い「お互い様」の意識で働きやすい職場が実現しています。日々の業務についても、職員からの意見を積極的に取り上げるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の関わりの中で、職員個々の勤務状況の把握に努め、相談に乗ったり、必要に応じ個別に職員面接等を行い、やりがいをもち働けるよう努めています。環境・条件整備にも、努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修には積極的に参加し、習得した知識は施設にて実施しています。施設内では、職員ミーティング時に、その時期一番必要なテーマで管理者などが講義を行い、全職員の知識・技術の向上に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学研修などを積極的に実施し、同業者との交流や、ネットワーク作りに努めています。また自施設への見学も積極的に受け入れ、提供サービスの見直しや向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、自宅に出向き、ご本人とお話しさせて頂き、不安や要望を把握出来るよう、努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて、ご家族様から十分にお話を伺い、施設についても細かく説明させて頂き、ご家族様の不安、要望を把握し、施設入所に対しての不安を少しでも軽減出来るように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階で、最適なサービスを提供できるようお話させて頂き、状況により他サービスの紹介など、その方に適したサービスを提供できるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	保有能力を最大限に活かし、出来る事はやって頂き、困っていることをサポートしながら、役割や出番を大切に、家事等を手伝って頂きながら、本当の家族のように助け合う関係を目指しています		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠足等の行事には、ご家族様にも参加のお誘いをしたり、毎月請求書と共に、施設でのご様子がわかる手紙、写真を添え、ご家族様との繋がりを大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の継続をサポートする事を目標に、ご自宅や馴染みの場所で過ごして頂いたり、馴染みの方が、いつでも気軽にみのりに来て頂けるような、雰囲気作りに努めています	親戚一同が米寿祝いに駆け付けた日は、空いていたデイホールを開放しました。150枚に及ぶ年賀状仕上げ、お金の自己管理を続ける人への銀行通いなど、今までの暮らしを綴る惜しみない支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格・生活リズム・相性などを考慮し席を決めたり、必要に応じ、職員が間に入り、入居者様同士が仲良く、助け合いながら生活出来るように努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的なアプローチはしませんが、関わりや支援を必要とする入居者様には、フォローや相談の支援に努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人に一人ずつ担当職員をつけて、担当職員を中心に、ご本人、ご家族様の意向を汲み取れるように努めています。ケアプラン作成者は、支援が本人本位になるよう、配慮しています	入居後数週間かけ、『希望や好み』『自分でできること』との項目毎に情報収集し、生活リズム表を作成しています。言葉による表出が困難な利用者にはその言動をよく観てまた想像力も駆使し、汲み取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員を中心に、日々の会話・コミュニケーションの中から、馴染みの暮らし方を知ったり、ご家族様からこれまでの生活歴を伺ったり、前のサービス提供者より、情報を頂いたりしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報や、日々の関わりの中から、その方の求める一日の過ごし方、可能な活動の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様からの意向の聞き取りと、日々のケアからの気づきを全職員から収集し、介護計画に反映させています	アセスメントは、担当職員の情報収集を全職員で検討しています。実践の振り返りができるよう独自のシートに記録していて、その人らしい生活に視点を置いたプランが全職員に共有される仕組みがあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づき等を、個々のケース記録に記入し、変更・申し送り事項は、文書及び口頭で職員間で共有し、介護計画や、日々のケアに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の施設ならではの強みを最大限に活かし、型に囚われない『利用者・本人本位』のサービスの提供、柔軟な対応に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、ボランティアさんの慰問など、豊かな暮らしを楽しめるように、適宜活用しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症を理解した上で、病状や、ご家族様、入居者様の思いや希望を優先しながら様々な相談に耳を傾けてくださり、医療面でも適切な対応をしていただけるように支援しています	月1回の受診を基本とし、月2回の往診と緊急時に対応可能で、細かな相談にも丁寧に応じてもらえる医療機関に受診しています。かかりつけ医の受診には職員が同行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員が、週に一度管理者と申し送り、健康チェックを行い、医療面でも適切な対応が出来るように努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族と連絡を取りあいながら、定期的に面会に伺い、主治医や看護師に情報提供をお願いし、自施設の体制も相談しながら、早期退院に繋がるよう、努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについては、まず入居時に自施設の指針を説明させていただきます。終末期には、往診や訪問看護を利用し、ご本人様、ご家族様を中心に対応や方針について、その都度話し合い、最良の対応が出来るように努めます	契約時に『看取りに関する指針』を説明し、ほとんどの家族が「最期までお願いしたい」と希望しています。この一年看取りの実績はありませんが、心身の状態変化に応じて医師から明瞭な指示があり、安心の環境にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員が適切に対応出来るように備えています。職員ミーティングにて、救命講習も予定しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害に対する防災訓練を行っています。三島市グループホーム連絡会で、地震・津波の危機管理について研修を受けたので、自施設に展開したいです	事業所における年2回の訓練のほか、グループホーム連絡会では図上訓練や状況予測訓練を踏まえながら災害対応マニュアルに反映するよう勉強会が行われています。地域との連携や備品の充実が今後の課題です。	夜間人員が少ない時間帯の避難誘導が再確認されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・着替え等の方法は、尊厳や羞恥心、誇りやプライバシーを損ねないように配慮しています。普段の関わりもお一人の年長者として、敬いのある関わりが出来るよう心掛けています	敬語を基本としていますが、場面や人となりにあった声かけが大事であると伝えてあります。人生の先輩として目線、声のトーンにも気配りし、利用者及び家族に受けいれてもらえる接遇を目指しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団生活の中で、可能な限り入居者様お一人お一人の、好みの暮らしをして頂けるよう、心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを考えながら、健康で穏やかに生活して頂けるよう、体操・レクリエーションも毎日取り入れながら、余暇の時間は自由に過ごして頂けるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望により、訪問美容師の依頼や、好みの着こなし、お化粧品、毛染めの支援など、希望に沿ったおしゃれが出来るように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	クリスマスバイキング、敬老会などの行事食を作り、『食の楽しみ』を感じて頂けるように心がけています。毎日の食事の準備や片づけは、入居者様と一緒にしています	家庭的な馴染みのあるメニューで、しっかり食べるため義歯の調整も怠りなく、その人に合った食事形態で提供しています。重度化して外食の機会が減りましたが、内部で楽しめる企画としてバイキングを増やしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食後チェックし、心配な方は水分摂取量や食事内容を専用シートに記入し、医師への相談につなげます。食事形態も嚥下状態に合わせ、対応しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には口腔ケアを行っています。職員による仕上げ磨き、特に臥床前には念入りにケアしています。歯科医師による口腔ケアの勉強会や、往診も行っており、口腔内や義歯の不具合にも迅速に対応するようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、出来るだけ失禁せずトイレでの排泄が出来るように支援しています。排泄量チェックも行い、水分不足や様々な疾患に早期発見、早期対応が出来るようにしています	食事前後や、表情、しぐさで排泄のサインを見逃さず「トイレに行きたい」気持ちを大切に、適切な声かけで状態維持が叶っています。意思が伝えられない人はパターンの把握で失敗が少ないよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分や食物繊維をきちんと摂れるように、支援しています。毎日体操を行い、体を動かす働きかけもしています。毎日排便確認をし、必要な場合は、内服薬の使用も検討します		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていますが、希望や必要があれば、いつでも入浴できるよう、配慮しています。入浴時間は完全個室で30分とり、ゆっくり入って頂けるようにしています	週2日、夏季は3日と曜日を決めています。希望があれば毎日入浴でき、また浴槽をまたぐことが困難な場合も職員二人介助で対応しています。職員との時間をゆっくり湯船に浸かって過ごせることが喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠って頂けるよう、昼間の活動内容にも配慮し、リネン洗濯、布団干しも定期的に行います。生活習慣や体調に合わせ、必要に応じ午睡出来るよう、支援します		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂く『お薬の説明』にて、目的や効能、副作用を理解しています。誤薬しない服薬方法を繰り返し指導しています。薬の増減、変更、体調の変化も観察・記録を行い、主治医へ報告、相談を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳や食事の片づけ、洗濯物たたみなどを、個々の保有能力に応じて行って頂き、感謝の気持ちを伝える機会を作っています。曜日ごと『お楽しみ』の時間を設け、音楽、運動、ゲームなどで楽しんで頂けるように支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や、散歩の希望があった時など、屋外に出掛けています。また、買い物やドライブなど、個別の希望にも可能な限り応じています	交通事情もあり、建物周辺の散歩コースに限られるなか、花壇や畑から季節を感じる事ができています。買い物に出かける頻度も減りつつありますが、可能な限り個々の希望に添った外出支援をしたいと考えています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に数回、入居者様の希望に応じて、買い物や銀行に出掛けています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所から希望があれば自由に電話が使えるようになっており、ご家族やご友人とお話をしています。ハガキ、手紙も、職員に渡すと、投函します		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感に心地よい物理的な環境になるように配慮し、掃除などもまめに行い、清潔で安全な環境作りを心掛けています。装飾品は、不快にならないよう、シンプルなものにしていきます	木のぬくもりで満ちた腰壁とフロア、2階は高い勾配天井で開放感があります。居室入口は交互に向き合いプライバシーへの配慮が成され、決められた分担で細部にまで清掃が行き届いています。職員も環境の一部として清潔で色合いのある服装としています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は、気の合った方と会話が弾むように配慮しています。また窓辺にソファを置き、日光浴を楽しめるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、出来るだけご本人の使い慣れたものをご持参下さるよう、お願いしています。安心して居心地良く過ごして頂けるよう、配慮しています	洗面所とエアコン、カーテン以外はすべて持ち込みとなっています。横幅広く7畳以上ある居室には使い慣れたベッドや冷蔵庫、筆筒、本人のこだわりの物で満たされ、その人らしい暮らしが垣間見えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の目線やADLを考え、家具の配置や手摺りの設置等を行っています。安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるように、配慮しています		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2270600535		
法人名	有限会社ハーベストライフ		
事業所名	グループホームみのり(弐)		
所在地	静岡県三島市南二日町650番地1		
自己評価作成日	平成26年 1月23日	評価結果市町村受理日	平成26年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2270600535-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2270600535-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成26年1月31日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

特段ひとつに力を入れているのではなく、一人一人の入居者様に対して、その方の生活歴、好みなどの『その人らしさ』を尊重し、安全に、安心して暮らして頂けるよう、日々の生活を大切に考え支援させて頂いております。ご家族様との交流の機会も大切に、ホームでの活動や支援の姿勢などを理解して頂けるように、日々活動しています。入居者様が安心して穏やかに、笑顔がたくさん見られるように、『日々の生活』を大切にしながら、自分達のケアを立ち止まり振り返りながら、みのりスタッフ一同チームとして、より質の高いケアを目指しています

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

行政や多職種との連携に努め、認知症介護指導者として事業所内外のレベルアップに尽力する代表と、適宜細やかな指示で職員の信頼を集める管理者の両輪に支えられた事業所です。"トータルバランスとしてすべてに対して基準以上のものでありたい、と臨むなか、職員全員を正社員としてその標準化を図っています。「ようこそおいで下さいました」「どうぞどうぞ」と来客を出迎え、我が家のように案内する利用者の姿は「主役、としての暮らしが担保されていることを十二分に物語っています。開設9年目となって重度化に向き合う局面を迎えました。最期までその人本来の在り様を探る時間が静かに流れています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みのりある最高の生活を収穫する」「もうひとつの我が家」という理念の下、一方的に介護されるのではなく、入居者様が自発的に生活でき、かつ本当の家のように、安心できる場所となるような、支援を目指しています	玄関、食堂に掲示し、職員採用時の面接にも理念を伝えています。「自分や親ならどう接してほしいか」具体例を通して学び、その結果どう変わったかを、職員ミーティングで話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例行事となっている納涼祭には、たくさんの近隣の方の参加があります。隣組に加入しており、餅つきなどの地域行事の参加に加え、今年度は組長をさせて頂き、地域の方との交流もますます深まっています	地域で組長の役割を担ったことで親交が深まり、連携がより図れるようになりました。回覧板でお知らせした納涼祭には100名以上の参加があり、ビンゴゲームや焼きそばの提供、シャギリや和太鼓で盛り上がりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の地域の方との交流の場において、法改正などの介護に対する疑問にお答えするようにしています。施設長が研修の講師を務めたり、キャラバンメイトにも参加しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設内・外研修の報告、より良い支援への取り組みの報告を行ったり、地域の方や、ご家族様の介護に対する思いを伺い、サービスに活かせるようにしています	地域包括支援センター職員、新旧民生委員、家族、利用者の参加を得て、定期開催されています。活動報告後のフリートークは本来の目的を超え、地域が抱えている現状課題抽出と解決方法を探る場に発展しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村・地域民生委員等の方に参加頂いたり、三島市グループホーム連絡会の場で交流を図り、介護現場の現状をお伝えしたり、行政機関に意見を頂いたりしています	三島市グループホーム連絡会の会場が市役所のため、相談やアドバイスがもらいやすくなっています。1ヶ月に一度訪問する介護相談員は一人ひとりの利用者に関わりをもち、活気ある生活の下支えとなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間の連携や声掛けで、常に入居者様の動きを見守り、施錠をしない、身体拘束をしない体制を作っています。また、管理者から身体拘束についての正しい知識を得ています	「正しい知識をもつことで防げる」とし、外部研修や会議で学んでいます。職員の支援や行動がその人の行動に影響を及ぼす為(人的環境)対処法としての言葉かけにならないように、その人の気持ちを受け止めることで、安心の暮らしに繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止委員会を設置し、事業所内で防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護等の制度を必要としている入居者様はいませんが、管理者は制度について知識を持っており、必要な時は活用できるようになっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、法改定時には、ご家族様に内容を十分ご理解頂けるよう、口頭での説明はもちろん文書も作成して、時間を十分とり説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が市より訪問していただき、入居者様一人ひとりに、不満や悩みを聞いてくださっています。ご家族様には、毎月施設でのご様子をお知らせする手紙を出し、その際にいつでもご意見を伝えてくださるよう、お伝えしています。玄関にご意見箱も常時設置しています	意見箱への投書はないものの、気になることは直接伝えてくれます。毎月の便利には「ご意見ご要望がありましたら遠慮なく」の言葉を添え、同封した写真は「表情から気持ちがわかり楽しみ」との声が届いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている職員ミーティングや、毎日の申し送り等で、現場の意見、提案を聞き、ケアの向上につながるよう努めています	勤務シフトはできるだけ希望に添い「お互い様」の意識で働きやすい職場が実現しています。日々の業務についても、職員からの意見を積極的に取り上げるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の関わりの中で、職員個々の勤務状況の把握に努め、相談に乗ったり、必要に応じ個別に職員面接等を行い、やりがいをもって働けるよう努めています。環境・条件整備にも、努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修には積極的に参加し、習得した知識は施設にて実施しています。施設内では、職員ミーティング時に、その時期一番必要なテーマで管理者などが講義を行い、全職員の知識・技術の向上に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学研修などを積極的に実施し、同業者との交流や、ネットワーク作りに努めています。また自施設への見学も積極的に受け入れ、提供サービスの見直しや向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、自宅に出向き、ご本人とお話しさせて頂き、不安や要望を把握出来るよう、努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて、ご家族様から十分にお話を伺い、施設についても細かく説明させて頂き、ご家族様の不安、要望を把握し、施設入所に対しての不安を少しでも軽減出来るように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階で、最適なサービスを提供できるようお話しさせて頂き、状況により他サービスの紹介など、その方に適したサービスを提供できるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	保有能力を最大限に活かし、出来る事はやって頂き、困っていることをサポートしながら、役割や出番を大切に、家事等を手伝って頂きながら、本当の家族のように助け合う関係を目指しています		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠足等の行事には、ご家族様にも参加のお誘いをしたり、毎月請求書と共に、施設でのご様子がわかる手紙、写真を添え、ご家族様との繋がりを大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の継続をサポートする事を目標に、ご自宅や馴染みの場所で過ごして頂いたり、馴染みの方が、いつでも気軽にみのりに来て頂けるような、雰囲気作りに努めています	親戚一同が米寿祝いに駆け付けた日は、空いていたデイホールを開放しました。150枚に及ぶ年賀状仕上げ、お金の自己管理を続ける人への銀行通いなど、今までの暮らしを綴る惜しみない支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格・生活リズム・相性などを考慮し席を決めたり、必要に応じ、職員が間に入り、入居者様同士が仲良く、助け合いながら生活出来るように努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的なアプローチはしませんが、関わりや支援を必要とする入居者様には、フォローや相談の支援に努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人に一人ずつ担当職員をつけて、担当職員を中心に、ご本人、ご家族様の意向を汲み取れるように努めています。ケアプラン作成者は、支援が本人本位になるよう、配慮しています	入居後数週間かけ、『希望や好み』『自分でできること』との項目毎に情報収集し、生活リズム表を作成しています。言葉による表出が困難な利用者にはその言動をよく観てまた想像力も駆使し、汲み取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員を中心に、日々の会話・コミュニケーションの中から、馴染みの暮らし方を知ったり、ご家族様からこれまでの生活歴を伺ったり、前のサービス提供者より、情報を頂いたりしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報や、日々の関わりの中から、その方の求める一日の過ごし方、可能な活動の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様からの意向の聞き取りと、日々のケアからの気づきを全職員から収集し、介護計画に反映させています	アセスメントは、担当職員の情報収集を全職員で検討しています。実践の振り返りができるよう独自のシートに記録していて、その人らしい生活に視点を置いたプランが全職員に共有される仕組みがあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づき等を、個々のケース記録に記入し、変更・申し送り事項は、文書及び口頭で職員間で共有し、介護計画や、日々のケアに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の施設ならではの強みを最大限に活かし、型に囚われない『利用者・本人本位』のサービスの提供、柔軟な対応に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、ボランティアさんの慰問など、豊かな暮らしを楽しめるように、適宜活用しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症を理解した上で、病状や、ご家族様、入居者様の思いや希望を優先しながら様々な相談に耳を傾けてくださり、医療面でも適切な対応をしていただけるように支援しています	月1回の受診を基本とし、月2回の往診と緊急時に対応可能で、細かな相談にも丁寧に応じてもらえる医療機関に受診しています。かかりつけ医の受診には職員が同行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員が、週に一度管理者と申し送り、健康チェックを行い、医療面でも適切な対応が出来るように努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族と連絡を取りあいながら、定期的に面会に伺い、主治医や看護師に情報提供をお願いし、自施設の体制も相談しながら、早期退院に繋がるよう、努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについては、まず入居時に自施設の指針を説明させていただきます。終末期には、往診や訪問看護を利用し、ご本人様、ご家族様を中心に対応や方針について、その都度話し合い、最良の対応が出来るように努めます	契約時に『看取りに関する指針』を説明し、ほとんどの家族が「最期までお願いしたい」と希望しています。この一年看取りの実績はありませんが、心身の状態変化に応じて医師から明瞭な指示があり、安心の環境にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員が適切に対応出来るように備えています。職員ミーティングにて、救命講習も予定しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害に対する防災訓練を行っています。三島市グループホーム連絡会で、地震・津波の危機管理について研修を受けたので、自施設に展開したいです	事業所における年2回の訓練のほか、グループホーム連絡会では図上訓練や状況予測訓練を踏まえながら災害対応マニュアルに反映するよう勉強会が行われています。地域との連携や備品の充実が今後の課題です。	夜間人員が少ない時間帯の避難誘導が再確認されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・着替え等の方法は、尊厳や羞恥心、誇りやプライバシーを損ねないように配慮しています。普段の関わりもお一人の年長者として、敬いのある関わりが出来るよう心掛けています	敬語を基本としていますが、場面や人となりにあった声かけが大事であると伝えてあります。人生の先輩として目線、声のトーンにも気配りし、利用者及び家族に受けいれてもらえる接遇を目指しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団生活の中で、可能な限り入居者様お一人お一人の、好みの暮らしをして頂けるよう、心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを考えながら、健康で穏やかに生活して頂けるよう、体操・レクリエーションも毎日取り入れながら、余暇の時間は自由に過ごして頂けるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望により、訪問美容師の依頼や、好みの着こなし、お化粧品、毛染めの支援など、希望に沿ったおしゃれが出来るように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	クリスマスバイキング、敬老会などの行事食を作り、『食の楽しみ』を感じて頂けるように心がけています。毎日の食事の準備や片づけは、入居者様と一緒にしています	家庭的な馴染みのあるメニューで、しっかり食べるため義歯の調整も怠りなく、その人に合った食事形態で提供しています。重度化して外食の機会が減りましたが、内部で楽しめる企画としてバイキングを増やしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食後チェックし、心配な方は水分摂取量や食事内容を専用シートに記入し、医師への相談につなげます。食事形態も嚥下状態に合わせ、対応しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には口腔ケアを行っています。職員による仕上げ磨き、特に臥床前には念入りにケアしています。歯科医師による口腔ケアの勉強会や、往診も行っており、口腔内や義歯の不具合にも迅速に対応するようにしています		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、出来るだけ失禁せずトイレでの排泄が出来るように支援しています。排泄量チェックも行い、水分不足や様々な疾患に早期発見、早期対応が出来るようにしています	食事前後や、表情、しぐさで排泄のサインを見逃さず「トイレに行きたい」気持ちを大切にし、適切な声かけで状態維持が叶っています。意思が伝えられない人はパターンの把握で失敗が少ないよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分や食物繊維をきちんと摂れるように、支援しています。毎日体操を行い、体を動かす働きかけもしています。毎日排便確認をし、必要な場合は、内服薬の使用も検討します		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていますが、希望や必要があれば、いつでも入浴できるよう、配慮しています。入浴時間は完全個室で30分とり、ゆっくり入って頂けるようにしています	週2日、夏季は3日と曜日を決めています。希望があれば毎日入浴でき、また浴槽をまたぐことが困難な場合も職員二人介助で対応しています。職員との時間をゆっくり湯船に浸かって過ごせることが喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠って頂けるよう、昼間の活動内容にも配慮し、リネン洗濯、布団干しも定期的に行います。生活習慣や体調に合わせ、必要に応じて午睡出来るよう、支援します		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂く『お薬の説明』にて、目的や効能、副作用を理解しています。誤薬しない服薬方法を繰り返し指導しています。薬の増減、変更、体調の変化も観察・記録を行い、主治医へ報告、相談を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳や食事の片づけ、洗濯物たたみなどを、個々の保有能力に応じて行って頂き、感謝の気持ちを伝える機会を作っています。曜日ごと『お楽しみ』の時間を設け、音楽、運動、ゲームなどで楽しんで頂けるように支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や、散歩の希望があった時など、屋外に出掛けています。また、買い物やドライブなど、個別の希望にも可能な限り応じています	交通事情もあり、建物周辺の散歩コースに限られるなか、花壇や畑から季節を感じる事ができています。買い物に出かける頻度も減りつつありますが、可能な限り個々の希望に添った外出支援をしたいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に数回、入居者様の希望に応じて、買い物や銀行に出掛けています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所から希望があれば自由に電話が使えるようになっており、ご家族やご友人とお話をしています。ハガキ、手紙も、職員に渡すと、投函します		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感に心地よい物理的な環境になるように配慮し、掃除などもまめに行い、清潔で安全な環境作りを心掛けています。装飾品は、不快にならないよう、シンプルなものにしていきます	木のぬくもりで満ちた腰壁とフロア、2階は高い勾配天井で開放感があります。居室入口は交互に向き合いプライバシーへの配慮が成され、決められた分担で細部にまで清掃が行き届いています。職員も環境の一部として清潔で色合いのある服装としています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は、気の合った方と会話が弾むように配慮しています。また窓辺にソファを置き、日光浴を楽しめるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、出来るだけご本人の使い慣れたものをご持参下さるよう、お願いしています。安心して居心地良く過ごして頂けるよう、配慮しています	洗面所とエアコン、カーテン以外はすべて持ち込みとなっています。横幅広く7畳以上ある居室には使い慣れたベッドや冷蔵庫、筆筒、本人のこだわりの物で満たされ、その人らしい暮らしが垣間見えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の目線やADLを考え、家具の配置や手摺りの設置等を行っています。安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるように、配慮しています		